

第13期第8回国立市ごみ問題審議会 議事録

日時 令和5年(2023年)6月23日(金)午前10時～正午
場所 国立市役所3階 第4会議室
出席者 山谷会長、山崎副会長、楠田副会長、内海委員、北委員、北村委員、高麗委員、田中委員、長嶋委員、山岸委員(委員は50音順)
事務局 黒澤生活環境部長、清水ごみ減量課長、吉村清掃係長、前田清掃係主任、菊次清掃係主任

【議事要旨】

1 国立市循環型社会形成推進基本計画に基づく進捗状況の評価について

資料に基づき、国立市循環型社会形成推進基本計画に基づく進捗状況(2022(令和4)年度実績)の行政による評価の(1)家庭系ごみの減量化・資源化の1)発生抑制(リデュース)～3)直す(リペア)①修理、修繕行動の促進について事務局から説明した。

【山谷会長】(1)家庭系ごみの減量化・資源化の1)発生抑制(リデュース)①ごみ減量協力店の利用促進について、ご意見をお願いします。

【山岸委員】ごみ減量協力店に、牛乳パック回収や有料ごみ袋販売をしている主要スーパーのさえきやオリンピックがないので、その主要スーパーがごみ減量協力店になるにはどうしたらいいのかというのを伺いたいです。エコショップとごみ減量協力店の違いは、いつも混同します。

【事務局】主要スーパーについては、エコショップ制度の認定店に入っている可能性が高いです。少し位置づけが違いますが、もし入っていないのであれば、ごみ指定袋の販売手数料が上がるので、こちらから引上げを図るように働きかけるべきだと思います。

【山谷会長】エコショップになっていると思います。両方入っていても、今のところ問題はないと思います。ごみ減量に関する取組みがより評価されて、エコショップ認定という制度を開始した、その動機づけとして、指定袋の販売手数料が8%から10%に上がりました。かなり強力な取組みへの誘因になったと思います。

【北委員】こういう店舗数などの数字を表すときは、分母が分からないと全体のうちのどれぐらいか分からないので、どれぐらいポテンシャルのあるお店があって、そのうちの何店舗か、といったことが分かるようにしていくと良いと思います。また、これは行政と違うかもしれませんが、国立市内にある飲食店から出る厨芥ごみ、いわゆる生ごみというのは、食品リサイクル法等に従ってリサイクルされているものなのでしょうか。ごみ減量という観点から、国立市内事業者が生ごみをどう捉えているのか、少し気になります。

【山谷会長】そうですね。分母がどのぐらいかというのは、昨年も質問されて事務局が答えていたと思います。飲食店の食品ロス等のリサイクル状況については、市としての把握は難しいと思いますが、全国的な状況というのが出ています。全国の外食店等のリサイクル率というのは、農水省、環境省等の調査がありますが、業種別では一番低いカテゴリーに入っています。以前は2割ぐらい、最近では3割ぐらいというような状況で、いずれにしても、飲食店の厨芥のリサイクル率は非常に低い状況で

す。理由はやはり、焼却施設で処理する方がコストが安いということに尽きると思います。正確な分別管理や臭いの問題がありますので、契約した収集運搬許可業者が取りに来たら出すといった形で、厨芥類を臭いのしないうちに処理したいという気持ちが先立っているように思います。

【事務局】国立市の事業所数については、「統計くにたち」によると、現在、国立市内に2,657事業所があるというデータがあります。分母としてはこちらですが、最新のデータが国勢調査にあわせて平成28年で止まっています。

【山谷会長】昨年末に新しい経済センサスが出ているので、そこはリニューアルしておいたほうがいいと思います。

【事務局】はい。ありがとうございます。

【田中委員】昨年度もお願いしましたが、ごみ減量協力店ステッカーを新しく見やすくすると、市民も協力店に買いに行くのではないのでしょうか。だいぶ古くなったので、もう少し分かりやすいものを考えていただきたいと思います。

【山谷会長】ありがとうございます。では、審議会の評価をしたいと思います。行政による評価では、ごみ減量協力店が増えるよう努めたいとあり、全くそのとおりですので、市民が減量協力店に気づきやすいように、ステッカーを見やすくするなど工夫を凝らして、店舗数が増えるように努めてもらいたいということでしょうか。

【山谷会長】②マイバッグ、マイボトル等の利用促進について、ご意見いかがでしょうか。ここは今まで「マイ箸」となっていました。マイボトルは、今日もお持ちの委員が3名おられるように、いま非常に関心を持たれている分野ですので、タイトルが変わっています。

【山岸委員】レジ袋、マイバッグも持っていくのが当たり前になってきましたよね。

【山谷会長】そうです、いい傾向だと思いますね。ここで私が非常に注目したのは、行政が以前からレジ袋NOデーということで、コンビニ店舗の店の前で、マイバッグキャンペーンを実施されていること。こういう自治体はあまりないので、非常にいい取組みをされていると思います。

もう一つ、令和4年に5年間の実績表がありますが、2016～17あたりは6%ぐらいだったのが、どんどん低下していったって2%ぐらいまで落ちてきています。要するに、レジ袋が排出されなくなった、使用されなくなったということだと思いますよね。行政の取組み、市民の取組み、そして事業者の取組みも当然あります。この3者の取組みの成果がきちんと出ているということで、このところはぜひ評価しておきたいと思います。

【山岸委員】直接関係あるか分からないですけど、私はパルシステム東京の国立委員会に所属しているところの話ですが、パルシステムではプラスチックバッグを回収しているけれど、回収率が悪い。それは、バッグをごみ袋に使っていたり、あとは行政に返してもパルシステムに返しても、どちらもリサイクルしているから同じだろうと思っている人が多いと思うんです。でも違って、今度は同じ組成のものの方がリサイクル率は高いということをもっと市民に理解してもらおうという、次のステップに行ってもいいかなと思いました。レジ袋はもう、できるだけもらわないことになったので、その後どうするか。ちゃんとしたルートに回したほうがリサイクル率が高い、環境にいいということをもっとちょっと普及してほしいなと思いました。

【山谷会長】なるほど。パルシステムの場合は、プラスチックの使用を減らすということをやっているが、使うこともあるわけですよね。

【山岸委員】はい。どうしても食材によって袋入りがあって、それを回収している。でもやっぱり、ポテトチップスの袋やお弁当のプラスチックごみといっしょに入れちゃうと、純度が下がりますよね。

【山谷会長】そうなんです。選別の過程で、レジ袋は割ときれいに出てくるので、レジ袋を別に選別して、レジ袋だけをリサイクルルートに乗せるという自治体もあります。

【山岸委員】そういうことができるんですか。

【山谷会長】はい。そんなような形で、取組みが随分進んできていると言えると思います。

それでは、審議会のまとめですが、一つは、コンビニ店頭でのレジ袋NOデーのキャンペーン、これは非常に評価できるということですよ。そして、最近の市民、事業者、行政のレジ袋削減・マイバッグ持参奨励・マイボトル利用促進の取組みの成果が、容器包装プラスチックに占めるレジ袋の組成比率の低下として表れてきて、いい方向に向かってきているという評価でいかがでしょうか。また、次のステップとして、リデュースの次にリユース。リユースの経路も踏まえた情報を配信してほしいと。よく知られていないけれども、個人だと色々なところに持って行ってしまうので、リユースを広げていく取組みも重要なので、留意して行ってほしいということですね。

【山谷会長】③厨芥類の水切りの促進について。水切りと書いてありますけども、中身を見ますと、エコ・クッキングなども計画内容に取り入れられていますので、厨芥の発生抑制も取り込んだ施策です。厨芥の可燃ごみに占める組成を見ますと、5年前に46%ぐらいあったのが、現状35%まで低下してきているとはっきり表れていまして、この中には多分、水切りによる比率低下も含まれていると思いますね。1人1日当たりの可燃ごみ収集量を見ますと、これはほぼ横ばいで、令和2年あたりは増えている。これはコロナ対策によるテレワークとか、テイクアウト増加などで、事業系ごみが減って家庭系ごみが増えたというのがありますけれども、R4にはH30の水準に、ほぼ戻っているという状況が見てとれます。これからは、これを下降線に持っていくということが課題になると思います。皆さんのご意見、伺いたいと思います。

【内海委員】かなり減ってきているので、私はこれは行政の努力はかなりあるんじゃないかと、すごく高く評価はしているんですけども、水切り以外に、何かこれが功を奏したのではないかというのが、行政のほうでありましたらお教えいただきたい。

それから、先ほどごみカレンダーにマイバッグのことを書いてというように、ごみカレンダーって結構便利だなと思っていたので、そういうところで水切りも、ちょっと絞りましょうみたいなことを書いて広報していく形は非常に有効だなと思いました。

【事務局】可燃ごみを減らすのは市のすごく大きな役割としてありますので、市民の皆さんの協力を得ながら、他の項目でも出てきますが、今、食品ロス削減計画といったことにも取り組んでいます。特に生ごみは堆肥化を進める事業を各家庭にお願いし、今は51世帯にご参加いただいて、バケツに入れた生ごみを回収し、堆肥化する事業を行っています。その広報もかなり手厚くやっていますので、すこしずつ市民の皆さんの意識が、いい方向に向かっているのかなと思います。

【内海委員】生ごみの堆肥化の成果も、ここに既に反映されているということでしょうか。何か月分ぐらいですか。

【事務局】生ごみの堆肥化事業については、去年の10月から行っていますので、昨年度は半年分ぐらい、その効果も出てきている可能性があると思っています。令和4年度の堆肥化した生ごみは1,310キログラム分です。

【山谷会長】 1.3トンですから、大きいですよ。そして周辺の住民に与える啓発効果もあると思うんです。ほかにいかがですか。

【田中委員】 環境フェスタなどで配るかわいいティッシュ、啓発グッズですね。

【山岸委員】 確かに。水切りについては、色々なグッズをもらったりした経験があります。多分、絶対聞いたことがある。水切りネットとかもらいました。

【山谷会長】 必ず水切りをしてから出してくださいと参加者に広報しながらね。

【北委員】 この計画の③、④といった分け方というのは、この計画を策定されたときの政策の分け方で、この③が水切りで、④が生ごみ処理機器の普及など、それぞれ評価しているということでしょうか。最初につくられた計画がこういうふうに分けていたので、評価もこの分け方でやっているという認識で。

【事務局】 そのとおりです。

【北委員】 分かりました。多分、この計画は5年計画という形だったと思うんですけど、私が思ったアイデアは、先ほど内海委員が質問されたときに、水切りの組成比率というのは、水切りの効果だけじゃなくて、コンポストとかの効果も入った全ての率なので。この分け方を、いわゆるコンポストとかごみ処理機を持っている家庭に対する対策と、持っていない家庭に対する対策みたいな感じで分けると、何か持っている家庭は、水切り以前に生ごみを出さないで、それだけで水切りよりもっとすごい対策になっていて、処理機を持っていない家庭は、持っていないなりにできるだけ水を切ってくださいということになるので、少しでも生ごみを少なくする、重量を少なくするという、そういう風にうまく切り分けられるんじゃないかと。一つ一つ政策名を分けるよりも、そういう、処理機を持っている家庭と持っていない家庭に対するそれぞれの対策みたいに分けたほうが分かりやすいのかなと思いました。次回以降ですが。

【山岸委員】 確かに、処理機を使っている私にとっては、もう水切りの認識はない。ちょっと水があったまま入れたほうがいいので、やっていないので、響かない箇所ではありました。全体目標は厨芥量を減らすこと。水切りはその一部だと思うので、いる人といない人が同じようにやると、コンポストはしてみたいという人には、確かにもったいない気がします。

【山谷会長】 消滅堆肥化容器をお使いの方や、生ごみ回収に協力されている方ですと、可燃ごみ削減量をはじくことができますけれど、それ以外の方にはなかなか、ちょっと分かりにくいところがありますよね。そういうことでは、単なる集積所からのピックアップによる組成分析ではなくて、協力していただけるご家庭からごみをもらい受けて、可燃ごみや資源物の量を一定期間分析しまして、どのような削減行動を取られているかを、アンケート調査にも協力してもらって、要因分析を行うことが非常に有効なんですよね。国立市の場合、まだそういう分析は行っておられないかもしれませんが、東京23区の場合は、コンサル会社がですけど、お願いベースで袋を配って、それにゴミを出してもらって、民間の協力事業者がもらい受けに行くと、という形の分析を行っています。集積所からピックアップしてということだと、残念ながら、行動分析がしにくいところがあります。だから、ごみ種の構成などの推移は見ることはできますけれども、なかなかその先に進まないというところがあると思います。

【内海委員】 皆さんの話を聞いて思ったのですけれども、ごみを減らす、生ごみを減らすためのロードマップみたいな表を一つ作って、カレンダーに貼ったらどうかと。さっき北委員から、人によって対応が違うんじゃないかというお話があったので、例えば庭があって、スペースを使って生ごみを

堆肥化できる人、というふうに。イエスの人は、堆肥化のための購入をすれば市からも支援がありますとか、ベランダがある人はキエーロありますとか。庭がちょっと広めの方はキエーロで減らせますみたいなルート図をつくって、そうでない人・ノーの方は水切り頑張りましょうみたいに書いて。堆肥化できる人のところには、ごみの収集：戸建ての人、というようなルートをつくって、生ごみ堆肥化も、「この条件の方は市に協力できるルートもあります」みたいに、チョイスとしてはこれだけあります、最低でも水切りしましょうというような形で、こうしてくればこういうメリットがあるみたいなこともちょっと横に書いていって。

私、ごみ関係の記事を読んだときに、収集の方は生ごみから出た汁が服につくとすごく臭いがしてすごい大変というのを読んだので、エネルギーの削減になりますとか、収集の方もすごく助かりますみたいなメリットを書いて、それぞれ一番いいのは、堆肥化などをしましょう・庭に埋めて地面に返すサーキュレート型の循環する生ごみ処理をしましょう、みたいに幾つか段階を分けて、それぞれ努力目標みたいなものをちゃんと作っていただけると、最低でも自分はこれができると分かっていたらな、と思いました。

【山谷会長】ありがとうございます。いろいろなご意見を頂戴しましたが、食品ロス関連は後ろの方で出てくるので、水切りに限定して評価をします。水切りのメリット・意義をきちんと市民に伝わるように工夫すると。生ごみ水切りのティッシュペーパーも一つの方法ですよ、メッセージが伝わります。より有効な手法で行って、生ごみ水切りの意義をきちんと認識していただくということが、まず第一歩ですよ。まとめとしては、そういう啓発をさらに充実していただきたいところですね。

【山岸委員】水切りは啓発のおかげでもう割とできるようになっている。けれどその意義までは伝わっているかどうか分からない。単に作業として水切って入れればいいでしょうではなくて、何でこれがいいのかということが伝わっているかどうかですね。

【山谷会長】そのメリットはやっぱり重量で量りますから、可燃ごみの減量ということが1つと、それから、可燃ごみの処理ですね。

【山岸委員】水を燃やすのかという。

【山谷会長】そういうことです、非常に焼却を困難にしているという面がありますし、そのことは、また発電量の減少も引き起こすわけです。そういう意味でいくと、CO₂とも非常に関連してくる。CO₂削減も含めた、生ごみ水切りのメリットを市民にきちんと伝わるように努めていただきたい。アンケート調査をプラスした分析は、これからの課題だと思います。お金がかかりますから、事前に予算化しておかないといけません。

【山岸委員】それを知りたいですよ。そしてロードマップを作るには。

【山谷会長】23区はどこもやっているんです。だからホームページなんかを見ると載っている場合もあります。

【山谷会長】④生ごみ処理機器の普及促進についてはいかがでしょうか。先ほども、もう議論が出ておりますけれど、行政としては、R4は47基にモニター数を増やすことができたというようなことでA評価にされています。いかがですか。

【山岸委員】さっきミニ・キエーロの使い方の動画見たら4.7万回再生になっていて、国立市は7万人ですよ。どれだけの人が見ているんだということじゃないですか。これ、もっといろいろ出

したら、結構普及する可能性があるということですよ。そんな再生されていると思わなくて。

【山谷会長】いや、これは全国的に注目されているんですよ、実は。私もちょっと関係している23区の自治体があるんです。そこで現物を持って行って、ここのお店で買えますと教えてあげました。そうしたら、その区自体も、国立市に断りなしに、ジャッキンボックスワールドから買ったし。

【山岸委員】いいと思われているんですね。

【山谷会長】横浜のある区は、たしか国立市に見に来たと思います。ほかの23区も、そういうところがあると思いますし、埼玉県とか、いろいろなところが、その自治体版のミニ・キエーロを開発して、普及を図っているというようなことですので、その自治体の市民の方にも関心を持って閲覧されているんじゃないかと思いますね。

【山岸委員】すごいなと思いました。

【山谷会長】だから、私、ただミニ・キエーロとするんじゃなくて、平仮名で、くにたちキエーロかにして、もっと宣伝したほうがいいんじゃないかと前に言ったことがあったんです。国立発なんですよ。知っている人は知っているんですけど。キエーロという片仮名は、もともと葉山町の以前パイロットやっていた松本さんという人が考案したんですよ。だから、パテント（特許）とかは取ってなくて、登録商標ですね。キエーロという商標を登録しているんです。ですから、キエーロという名称を使うなら、一応、松本氏に断りを入れる必要はあるようです。松本氏自身も団体をつくって、原価ベースで販売もして、普及に協力しているようです。ということでオリジナルですから、もっとこのキエーロの存在を、まずは市民にもっとアピールしていただきたいですよ。そして予算も増やして、もうちょっと規模も大きくして、普及を図っていただきたい。

【山谷会長】⑤グリーン購入の促進について、ご意見ございましたらお願いします。

【楠田委員】この市役所でやっていることは全ていいことと思うんですが、気になったのが、庁舎内全体で備品を譲る風土が醸成されて、不要な物品を購入しないように努めたというところが、これは限りある予算をなるべく使わないように、在庫率を下げようということ、こういうことは全く重要だと思いますが、グリーン購入の趣旨からいうと、環境に優しいグリーン製品は一般製品と比べて通常値段が高いので、基本的に誰も買わないから、役所や国が率先して買うことで需要を拡大し、新しいマーケットの開発に資するという、それが環境省なんかの趣旨なんですね。つまり、そうすると、国や地方公共団体は、可能な限り努力して、どんどんグリーン製品を購入するという方向に促進すべきだという考え方ですが、それが、節約のために在庫率を減らし買わないようにしますと併せて表記されると、せっかく誰も買わない高いグリーン製品を役所が率先して買って、措置しているにも関わらず、買わないようにしますと言われると、正直違和感があります。

そういう意味では、やっていることは絶対いいのですが、この評価書に、庁内でなるべく無駄なものは買いませんという表現は取ったほうがいいんじゃないか、というのが感想です。

【事務局】そのように対応したいと思います。ありがとうございます。

【山谷会長】まとめとしましては、やはり広報。きちんと市民、事業者にとって身近なグリーン購入法適格、適合商品について、引き続き広報を充実させていただきたいということですね。

【山谷会長】⑥食品ロス削減の推進の御意見お願いいたします。行政の評価はA、食品ロス削減推進計画を策定し、食品ロス削減の推進体制が整ったことを評価してほしい、ということですよ。

【事務局】補足です。このA評価ですが、今年から走り始めた計画なので当然まだこれからですが、事務局としては、26市の中でも、まだあまり策定されていない計画に着手したこと、ごみ量全体を減らすために食品ロス削減を削減しなくてはいけないという大事な意味を持つ計画を策定したこと。策定して満足ではないですが、これがないとごみも減らないということがありますので、そういった意味合いでの評価です。来年度以降はもっと厳しく取り組んだ事業について評価していきたいと考えています。

【山谷会長】ではただいまの説明を受けて、食品ロス削減推進計画の施行を機に、市の広報誌で特集を組むなど、食品ロス削減のキャンペーンを積極的に打っていただきたいと。審議会としては、このような意見です。

【山谷会長】2)再使用(リユース)①リサイクルインフォメーションの利用促進について、いかがでしょうか。ジモティーを粗大ごみのホームページ説明のトップに持ってくるという工夫をされました。これはどこの市にもある常設展示施設・リサイクルプラザなどが国立市にはないという、国立市の置かれた状況から、民間のアプリ事業者を積極的に活用したいという、趣旨だと思います。

ご意見ないようでしたら、審議会のまとめとしては、常設展示施設が存在していない状況の下で、ごみとして出す前の選択肢を広げる取組に注力していることは評価できる、ということでしょうか。

【山谷会長】②フリーマーケット等の支援について、いかがでしょうか。常設展示場はないけれども、環境フェスタなどの場を活用して、リユースバザーやフリーマーケットの開催を市で支援しています。

【北村委員】商工会女性部でも毎年色々な所でバザーをやっているんですけど、このところ、利用して下さる方がすごく少ないです。どうしてか見に来る方もすごく少ないし、すごく安い値段で販売しているんですが、購入する人も本当に少なく、もうバザーはできない感じで減っていて、それがなぜなのかみんな話しているけど、出てこないです。皆さん、いろいろすごく節約して、そういうものが出てこないのもあるんです。バザーを募集しても、皆さんからそういうものが出てこないのもある。だから、やっぱり数じゃなくて、これが欲しい、これを出したいって、お互い何が必要か、とやっていかないと、ただリサイクルで出しても、もうこれからは何か駄目なのかなという感じで、このところ話合いをしています。

【山谷会長】それはコロナが大いに影響しているんじゃないかなと思いますね、コロナの警戒感で、まだそういうイベントへの参加は差し控えておいたほうが無難かなということですね……

【北村委員】みんな整理しちゃって、今までは何か欲しいって買うのもあったけども、自分のうちをもう整理して、今は自分のうちのものを減らしているから増やせないとか、そういう感じのことを皆さんすごくおっしゃって、楽しんでいる様子はなかったです。

【山谷会長】出店数も参加者数も減っている。

【北村委員】そう。こっちが出したいぐらい、みたいな方がすごく増えて、ただ出すだけでなく、やり方を考えていかないと駄目なのかなという感じはちょっとしました。

【山岸委員】イベントがちょっと増えてきたから、今まではあったら行ったけど、たくさんあり過ぎて、何のためのイベントかというのが明確でないと多分行きづらい。あとは、例えばこの環境フェスタくにたち、参加したいと思っても準備が要るじゃないですか。だから、環境フェスタが9月なら

4月ぐらいから物を集めるじゃないですか。いきなりフェスタ直前に市報などあっても間に合わなかったり。一年のうちこの時期にあるみたいなものが全体でまとまったリストなどがあつたら、行動しやすいと思いました。

【内海委員】成功するフリーマーケットと、そうでないマーケットがあるのかなと、ちょっと今、思っています。やっぱりこういうのって、出品される数が多ければ、自分が今欲しいなど思っているものがすごく安く手に入るということがあって、比較的大規模にやったほうが人が集まりやすいのかなと。あと、このフリマがいつもあるなら出品者も計画できるというのもあるので、もうすこし環境フェスタの回数が増やせないか。あるいは枠を増やす、希望を超える申込みがあつたということなので。

【山谷会長】では審議会のまとめとしては、コロナ規制解除後のフリーマーケット活性化に向けて、開催支援を積極的に行ってほしいということではいかがでしょうか。

【山谷会長】③リサイクル家具等販売の推進について。引き続きリユースですが、いかがでしょうか。

【楠田委員】質問なんですけれど、富士見商店街で一橋大学の学生がやっている「ゆーから」に、すごく関心があつて、たしかもう10年ぐらいたつと思うんですけれど、そのデータを見ると、自転車や家具の販売数も、コロナ禍でそれほど伸びていない。あと、ゆーからはホームページをお持ちなので、学生が一生懸命ブログとか更新しているかなと思うと、ブログ更新も最近1年ぐらいいないので、一橋の学生さんたちはもうこういう関心が薄れちゃつたのかなと。せっかく学生がこういった活動に積極的に参加するというのはすごくいいと思っていたものですから、ちょっと心配しているんです。

この文章では、ゆーからでやっています、と淡々と書いてありますが、富士見商店街のゆーからは今どんな状況なんでしょうか。

【事務局】委員がおっしゃるところは市も懸念しています。一方自転車については、放置自転車が増えなく、今までは放置自転車の中から質のいいものを選んでリサイクル販売をしていましたが、今ももうほぼ違法駐輪がありませんので、撤去するものがない、選ぶ自転車もない。絶対数が減っているというのが1つあります。細々と今、いい自転車を選んでリサイクルにつなげています。

ゆーからの事業は、今まで年2回だった販売会を、年4回に頻度を上げて、今年も4月にやり、次は8月を予定しています。このように回数を増やして、学生たちのモチベーションが落ちないように、取組みを進めています。

【山谷会長】では審議会のまとめとしては、学生など若者層にもリユースが定着するよう、ツイッターやLINEなどSNSの利用も含め、広報に工夫を凝らしていただきたい、とします。

【山谷会長】最後に3)直す(リペア)①修理、修繕行動の促進について、ご意見をお願いします。

【山岸委員】可能だったら、おもちゃ病院とかは、いつやるのか年間スケジュールで分かつたら、もうちょっと予定が立てられると、市民としてはありがたいなど。

【山谷会長】そうですね。場所と時間とね。

【山岸委員】はい。大体、児童館でやっていることは知ってますが、それがいつなのかこっちは分からなくて。

【山谷会長】R2・3年は、コロナが酷くてお休みで、R4年から再開されたということですね。

【田中委員】おもちゃ病院は、11月の農業まつりでもやっています。広報については、そのとおりですね。

【山岸委員】例えば、もう今の時点で11月にあるのが分かるんだったら、どこかにそういう記載があると。例えば7回やっているなら、それが何月というのが今の時点で分かるんだったら、発表してもらえると、そこに合わせてスケジュール立てていけると思うんです。今は偶然市報を見てみつけたときだけみたいな感じになっているので。

【田中委員】国立市消費生活展なんかも、傘ですとか、包丁研ぎとか、やってくださる方を探すのはとても大変なんですけど、でもそういうのがあれば大きく広報したい。

【山岸委員】今、増えてきていますよね。靴とか、お洋服のリメイクとか見かけます。

【北村委員】大事ですよ。物を大事にする、子供たちにそう伝える。

【山谷会長】ではまとめとしては、おもちゃ病院の実施予定ですね。また、そのリペア実施店の情報など、情報提供を充実させて、物を大切にする市民の意識と行動を広げていただきたいというような内容でいかがでしょうか。

2 その他

資料に基づき、ごみ減量課で今年度実施するイベント（喫煙マナーアップキャンペーン、ごみゼロ運動、ジューンフェスタ出展、国立まと火、矢川プラス啓発展示）について事務局から説明した。

3 次回以降の日程について

第9回は予定どおり令和5年7月24日（月）の午前10時から、

第10回は令和5年9月26日（月）の午前10時から行うこととした。

4 施設見学会

委員有志にて、午後13時からクリーン多摩川の施設見学会を実施した。

— 了 —